

平成30年10～12月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業(個人経営の事業所)の業況判断D I

① 今期の業況判断
今期(平成30年10～12月期)の業況判断D Iは (-)58.0 で、前期(平成30年7～9月期) (-59.4)に比べ、1.4 ポイントの改善。

② 来期の見通し
来期(平成31年1～3月期)の業況見通しD Iは (-)60.0 で、今期の業況判断 (-58.0) に比べ、2.0 ポイントの悪化の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

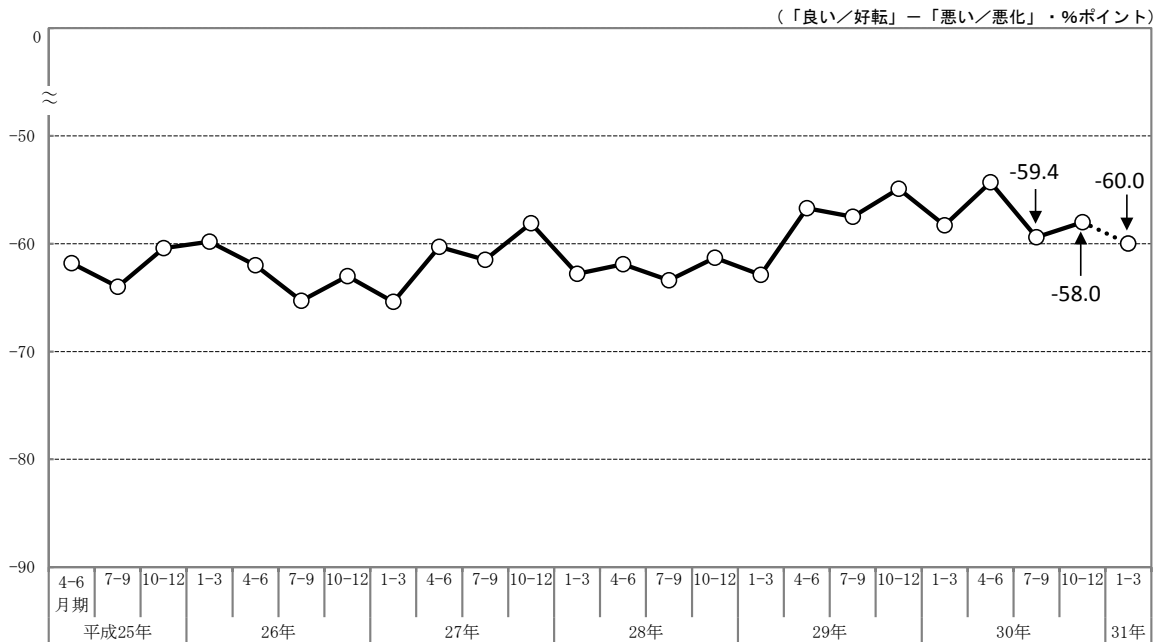


表1 業況判断の割合 —調査産業計—

	平成29年	30年			31年		
	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期 見通し	
今期の業況, 来期の業況 (%)							
良い/好転	4.6	4.3	4.3	3.6	4.1	2.6	
普通/不変	35.9	33.1	37.1	33.4	33.8	34.8	
悪い/悪化	59.5	62.6	58.6	63.0	62.1	62.6	
D I	-54.9	-58.3	-54.3	-59.4	-58.0	-60.0	
参考	日銀短観(大企業全産業計)	26	23	22	21	21	18
	中小企業景況調査(全産業計)	-20.1	-24.8	-20.3	-22.1	-19.5	-16.4

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成31年1月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、	
□「製造業」は	253万7000円で、前年同期に比べ、2.3%の減少
□「卸売業、小売業」は	377万9000円で、前年同期に比べ、5.7%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	223万1000円で、前年同期に比べ、1.6%の減少
□「サービス業」は	133万5000円で、前年同期に比べ、3.8%の増加
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、	
□「製造業」は	74万円で、前年同期に比べ、3.9%の減少
□「卸売業、小売業」は	46万5000円で、前年同期に比べ、17.1%の増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	41万3000円で、前年同期に比べ、0.5%の減少
□「サービス業」は	46万5000円で、前年同期に比べ、1.1%の減少

※前年同期：平成29年10～12月期

表2 産業別売上高及び営業利益

		(1事業所当たり)							
		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
実数 (千円)	平成28年 10～12月期	2,558	688	3,821	405	2,120	387	1,200	427
	平成29年 1～3月期	2,328	605	3,320	287	2,014	372	1,131	377
	4～6月期	2,478	641	3,621	385	2,109	409	1,242	496
	7～9月期	2,431	569	3,648	446	2,245	443	1,189	450
	10～12月期	2,597	770	4,009	397	2,267	415	1,286	470
	平成30年 1～3月期	2,009	504	3,686	412	2,187	388	1,126	383
	4～6月期	2,388	687	3,595	415	2,165	421	1,223	464
	7～9月期	2,191	568	3,339	350	2,149	386	1,238	463
10～12月期	2,537	740	3,779	465	2,231	413	1,335	465	
前年同期比 (%)	平成28年 10～12月期	7.5	6.8	-6.0	-16.3	-8.3	-17.7	-6.6	-9.3
	平成29年 1～3月期	1.5	-11.7	-6.9	-18.7	-10.6	-11.0	-0.3	-0.5
	4～6月期	14.5	4.6	-1.0	16.7	1.2	11.7	7.4	17.8
	7～9月期	16.2	-1.9	0.3	14.9	6.5	6.0	4.4	5.4
	10～12月期	1.5	11.9	4.9	-2.0	6.9	7.2	7.2	10.1
	平成30年 1～3月期	-13.7	-16.7	11.0	43.6	8.6	4.3	-0.4	1.6
	4～6月期	-3.6	7.2	-0.7	7.8	2.7	2.9	-1.5	-6.5
	7～9月期	-9.9	-0.2	-8.5	-21.5	-4.3	-12.9	4.1	2.9
10～12月期	-2.3	-3.9	-5.7	17.1	-1.6	-0.5	3.8	-1.1	

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、	
□「製造業」は	14万2000円で、前年同期（9万8000円）に比べ、増加
□「卸売業、小売業」は	5万5000円で、前年同期（5万7000円）に比べ、減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	10万8000円で、前年同期（14万円）に比べ、減少
□「サービス業」は	6万5000円で、前年同期（4万2000円）に比べ、増加
② 今期の1事業所当たりの設備投資率（売上高に対する設備投資額の割合）は、	
□「製造業」は	5.6%で、前年同期（3.8%）に比べ、1.8ポイントの上昇
□「卸売業、小売業」は	1.5%で、前年同期（1.4%）に比べ、0.1ポイントの上昇
□「宿泊業、飲食サービス業」は	4.8%で、前年同期（6.2%）に比べ、1.4ポイントの低下
□「サービス業」は	4.9%で、前年同期（3.3%）に比べ、1.6ポイントの上昇

※前年同期：平成29年10～12月期

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

		(1事業所当たり)							
		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
平成28年	10～12月期	64	2.5	93	2.4	84	4.0	47	3.9
平成29年	1～3月期	121	5.2	46	1.4	46	2.3	43	3.8
	4～6月期	79	3.2	54	1.5	64	3.0	66	5.3
	7～9月期	110	4.5	63	1.7	72	3.2	33	2.8
平成30年	10～12月期	98	3.8	57	1.4	140	6.2	42	3.3
	1～3月期	40	2.0	59	1.6	42	1.9	28	2.5
	4～6月期	236	9.9	43	1.2	56	2.6	59	4.8
	7～9月期	79	3.6	49	1.5	114	5.3	68	5.5
	10～12月期	142	5.6	55	1.5	108	4.8	65	4.9

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成30年10～12月期）の業況判断DIは（-）58.0で、前期（平成30年7～9月期）（-59.4）に比べ、1.4ポイント改善した。

イ 前期と比較した業況判断DIは（-）41.5で、前期（-48.3）に比べ、6.8ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成29年10～12月期）と比較した業況判断DIは（-）51.0で、前期（-52.8）に比べ、1.8ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成31年1～3月期）の業況見通しDIは（-）60.0で、今期の業況判断（-58.0）に比べ、2.0ポイントの悪化の見通しとなっている。

図2 業況判断DIの推移 - 調査産業計 -

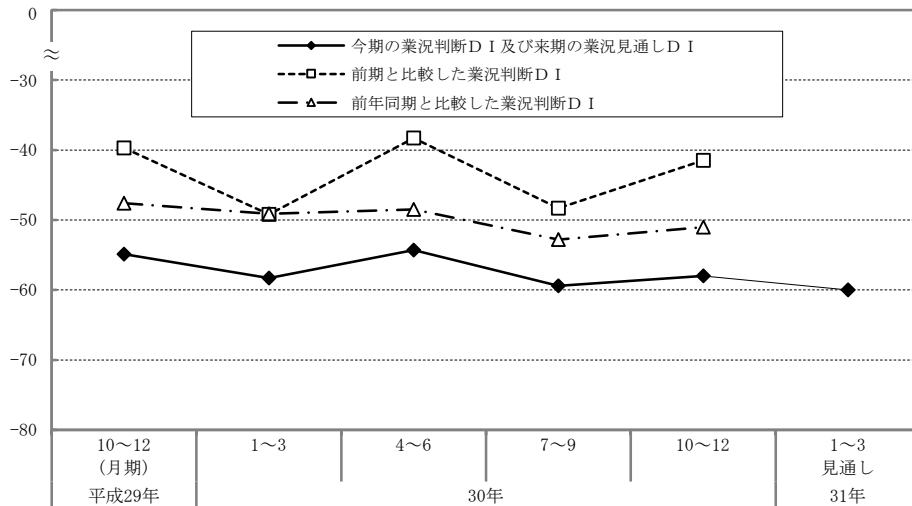
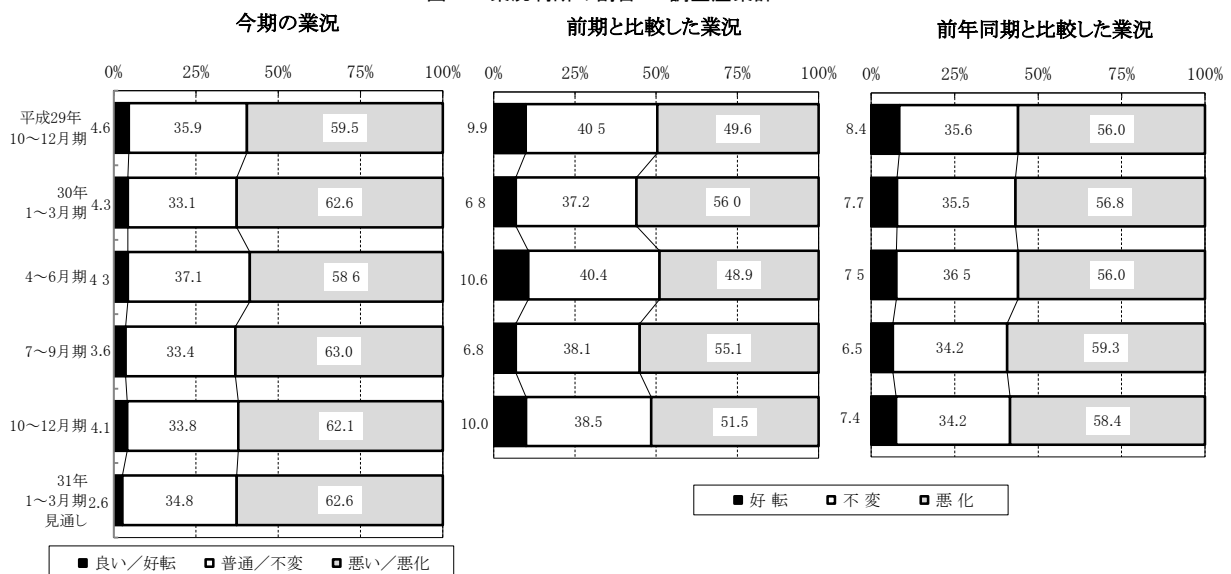


図3 業況判断の割合 - 調査産業計 -



(2) 売上の状況

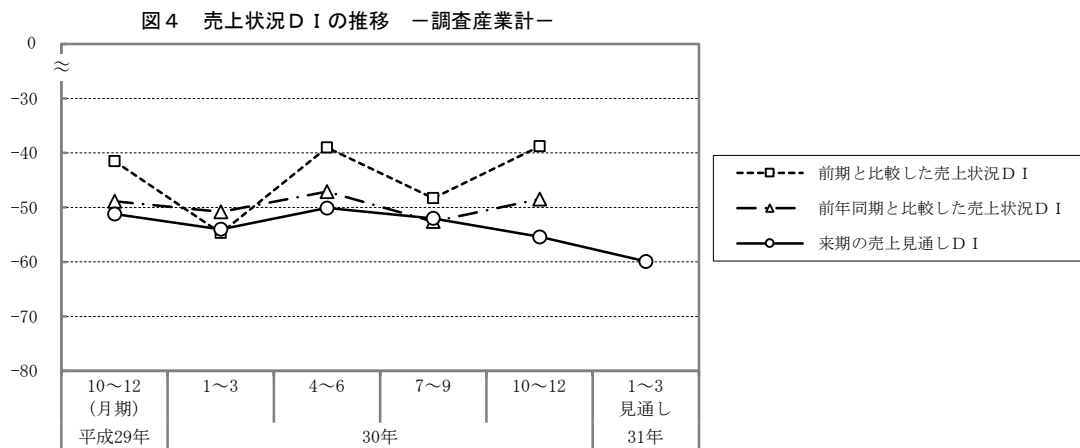
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)38.8 で、前期 (-48.3) に比べ、9.5 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)48.5 で、前期 (-52.6) に比べ、4.1 ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)59.9 で、前期における今期の売上見通し (-55.4) に比べ、4.5 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

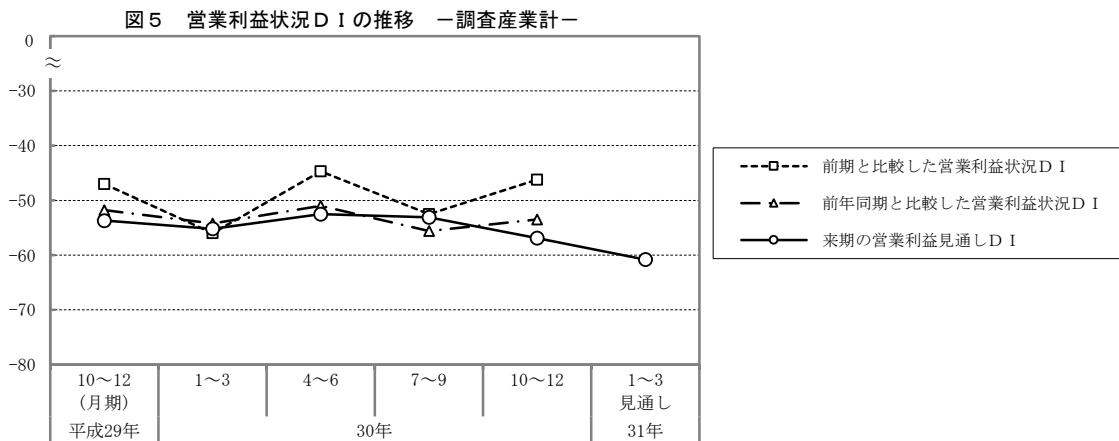
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)46.2 で、前期 (-52.5) に比べ、6.3 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)53.5 で、前期 (-55.6) に比べ、2.1 ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

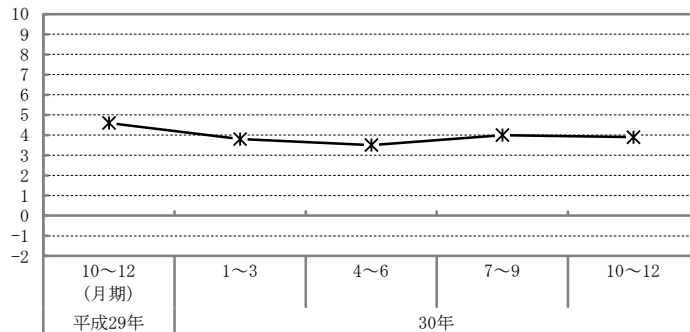
来期の営業利益見通しD Iは (-)60.8 で、前期における今期の営業利益見通し (-56.9) に比べ、3.9 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)3.9 で、前期 (+4.0) に比べ、0.1 ポイント「過剰」が縮小した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

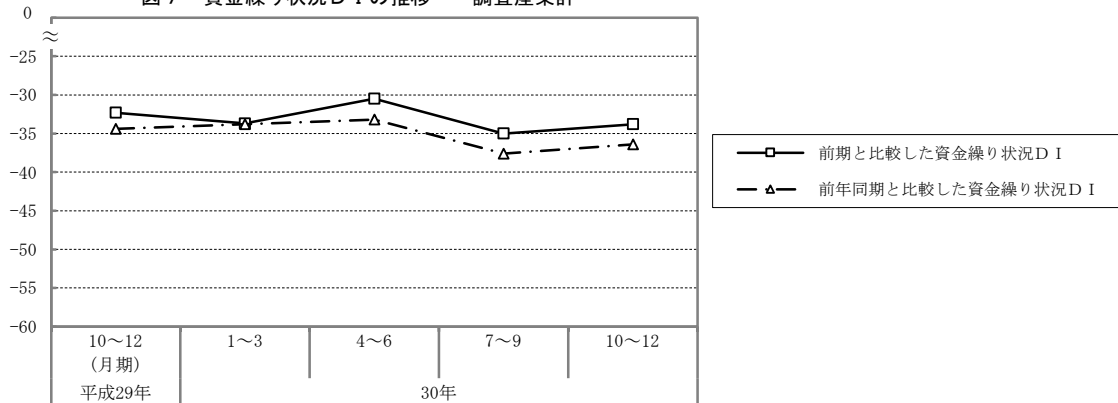


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)33.8 で、前期 (-35.0) に比べ、1.2 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)36.4 で、前期 (-37.6) に比べ、1.2 ポイント改善した。

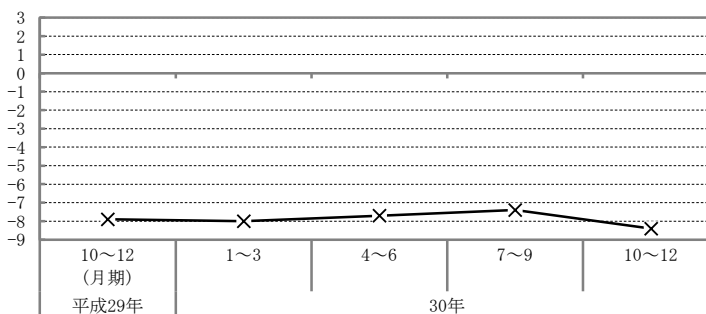
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)8.4 で、前期 (-7.4) に比べ、1.0 ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成30年10～12月期）の業況判断DIは（-）48.8で、前期（平成30年7～9月期）（-46.3）に比べ、2.5ポイント悪化した。

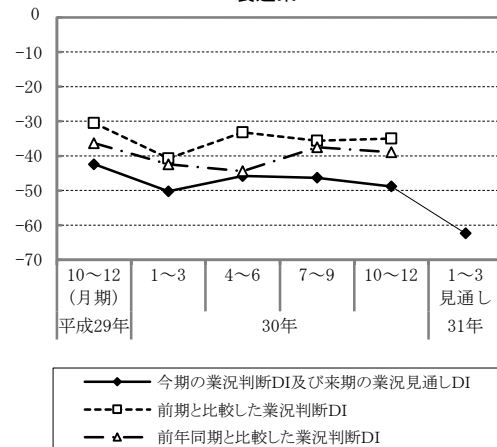
イ 前期と比較した業況判断DIは（-）35.0で、前期（-35.6）に比べ、0.6ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成29年10～12月期）と比較した業況判断DIは（-）38.9で、前期（-37.5）に比べ、1.4ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成31年1～3月期）の業況見通しDIは（-）62.4で、今期の業況判断（-48.8）から、13.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

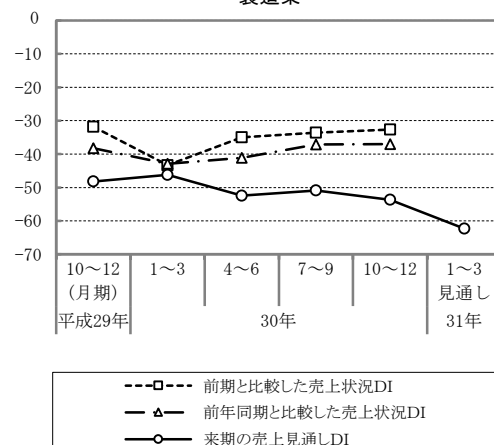
ア 前期と比較した売上状況DIは（-）32.7で、前期（-33.6）に比べ、0.9ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは（-）37.0で、前期（-37.1）に比べ、0.1ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは（-）62.3で、前期における今期の売上見通し（-53.7）から、8.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

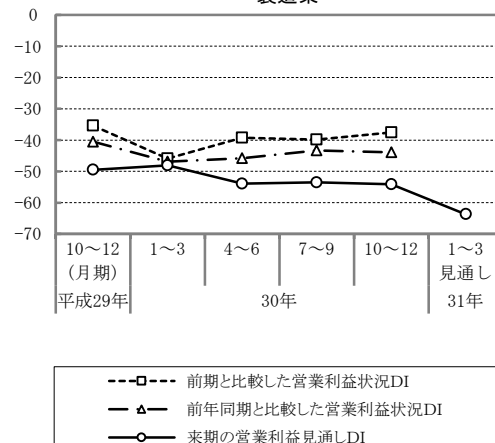
ア 前期と比較した営業利益状況DIは（-）37.6で、前期（-39.8）に比べ、2.2ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは（-）43.9で、前期（-43.3）に比べ、0.6ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは（-）63.7で、前期における今期の営業利益見通し（-54.1）に比べ、9.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(-)0.5で、前期(+1.0)に比べ、1.5ポイント「不足」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)30.6で、前期(-31.7)に比べ、1.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)33.6で、前期(-35.3)に比べ、1.7ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)7.8で、前期(-6.8)に比べ、1.0ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

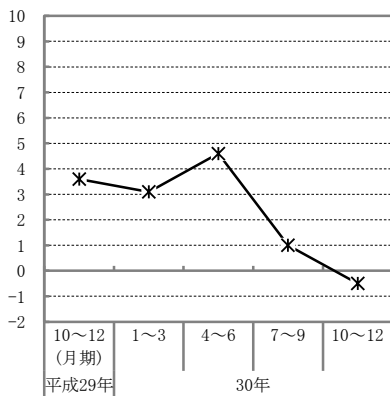


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

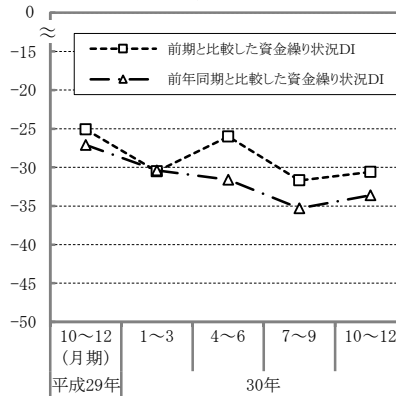
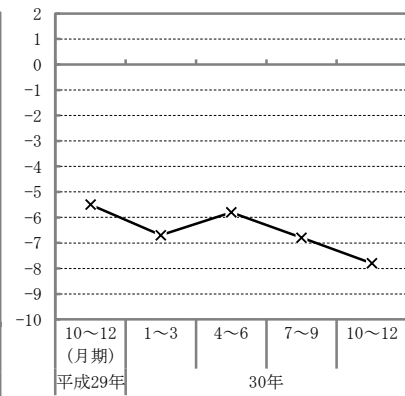


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業、小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期(平成30年10~12月期)の業況判断DIは(-)63.4で、前期(平成30年7~9月期)(-64.3)に比べ、0.9ポイント改善した。

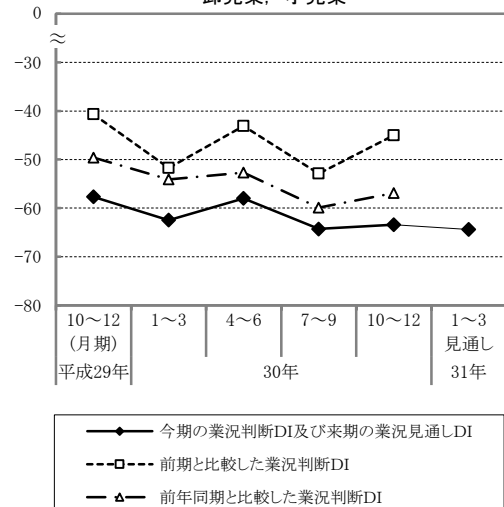
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)45.0で、前期(-52.9)に比べ、7.9ポイント改善した。

ウ 前年同期(平成29年10~12月期)と比較した業況判断DIは(-)56.9で、前期(-59.9)に比べ、3.0ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期(平成31年1~3月期)の業況見通しDIは(-)64.4で、今期の業況判断(-63.4)に比べ、1.0ポイントの悪化の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業、小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

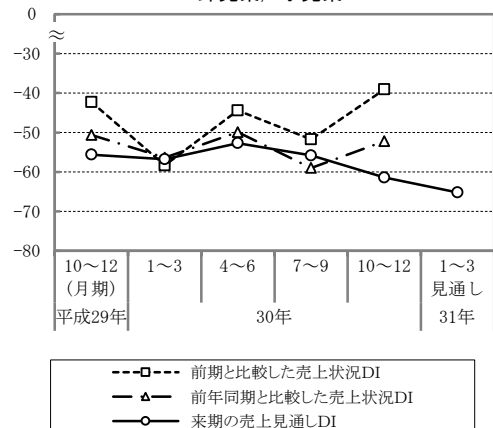
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)39.1で、前期(-51.7)に比べ、12.6ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)52.2で、前期(-59.0)に比べ、6.8ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)65.2で、前期における今期の売上見通し(-61.4)に比べ、3.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

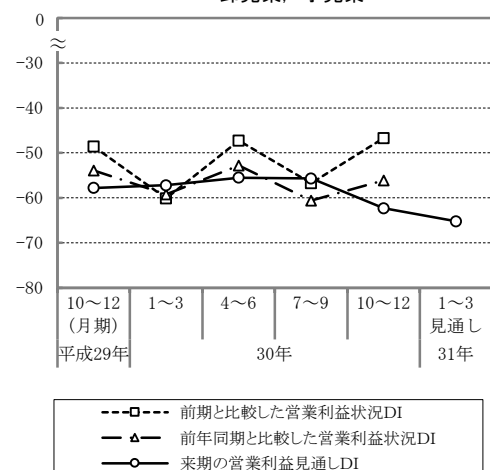
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)46.7で、前期(-56.7)に比べ、10.0ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)56.1で、前期(-60.6)に比べ、4.5ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)65.2で、前期における今期の営業利益見通し(-62.3)に比べ、2.9ポイントの悪化の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)7.1で、前期(+6.6)に比べ、0.5ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)35.9で、前期(-37.0)に比べ、1.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)38.0で、前期(-40.6)に比べ、2.6ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)8.2で、前期(-7.5)に比べ、0.7ポイント「不足」が拡大した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業, 小売業-

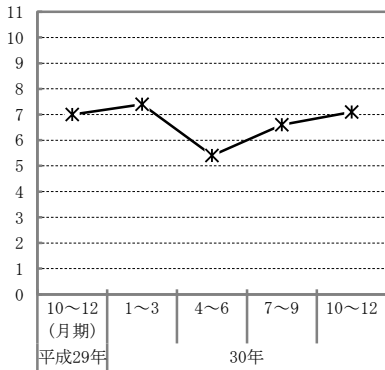


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業, 小売業-

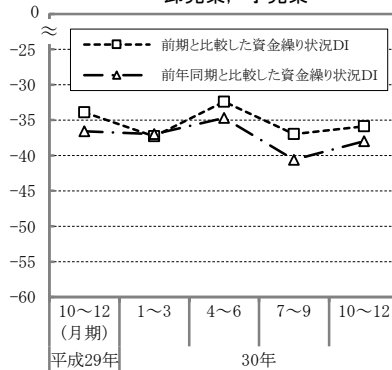
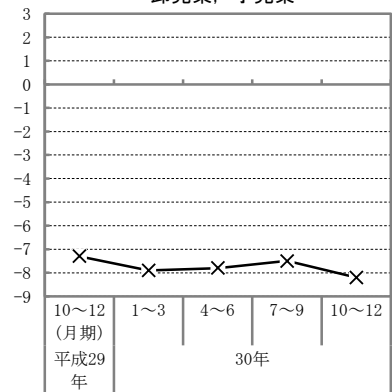


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業, 小売業-



4 宿泊業, 飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成30年10~12月期）の業況判断DIは (-)54.6 で、前期（平成30年7~9月期）(-58.2) に比べ、3.6 ポイント改善した。

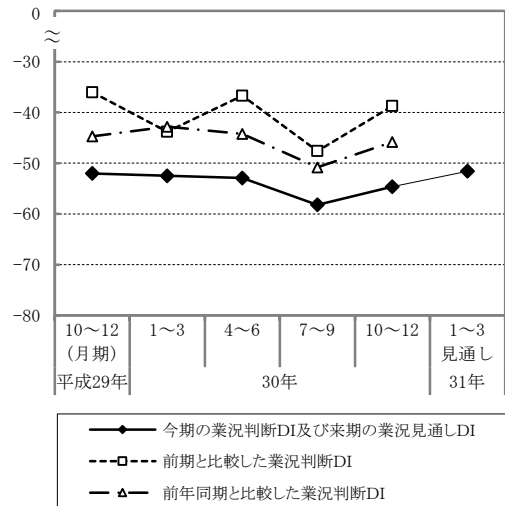
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)38.7 で、前期 (-47.6) に比べ、8.9 ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成29年10~12月期）と比較した業況判断DIは (-)45.8 で、前期 (-50.8) に比べ、5.0 ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成31年1~3月期）の業況見通しDIは (-)51.6 で、今期の業況判断 (-54.6) に比べ、3.0 ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業, 飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

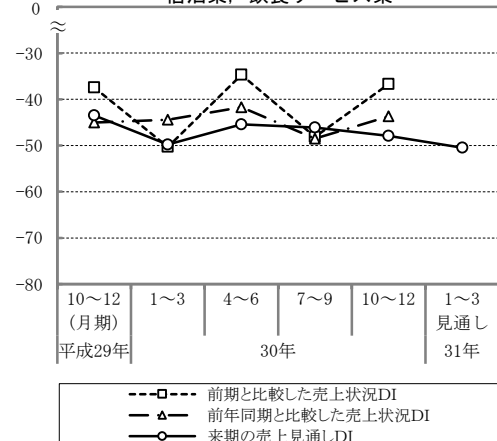
ア 前期と比較した売上状況DIは (-)36.7 で、前期 (-48.1) に比べ、11.4 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは (-)43.7 で、前期 (-48.5) に比べ、4.8 ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは (-)50.5 で、前期における今期の売上見通し (-47.9) に比べ、2.6 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業, 飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

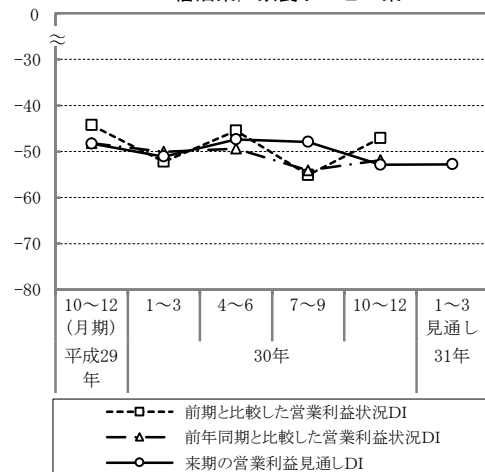
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)47.1 で、前期 (-55.1) に比べ、8.0 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)51.9 で、前期 (-54.1) に比べ、2.2 ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)52.8 で、前期における今期の営業利益見通し (-52.9) に比べ、0.1 ポイントの改善の見通しとなっている。

図23 営業利益状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)1.9 で、前期 (+2.8) に比べ、0.9 ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)34.8 で、前期 (-34.2) に比べ、0.6 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)37.4 で、前期 (-35.8) に比べ、1.6 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)12.3 で、前期 (-8.3) に比べ、4.0ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

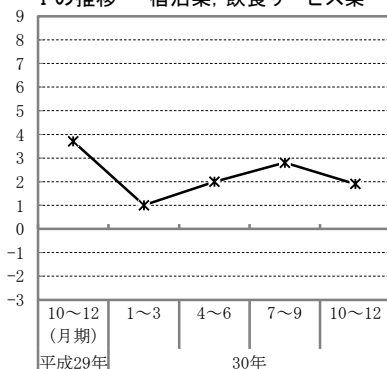


図25 資金繰り状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

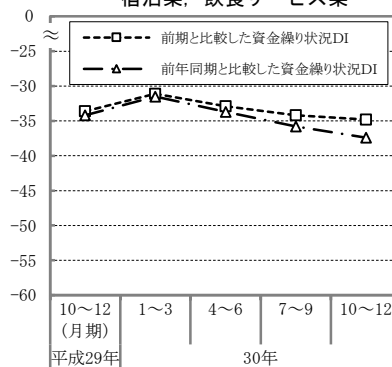
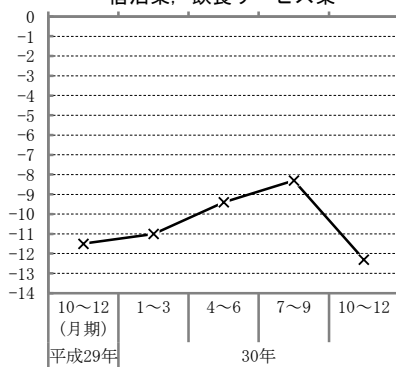


図26 雇用状況D Iの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成30年10～12月期）の業況判断DIは(-)56.8で、前期（平成30年7～9月期）(-59.1)に比べ、2.3ポイント改善した。

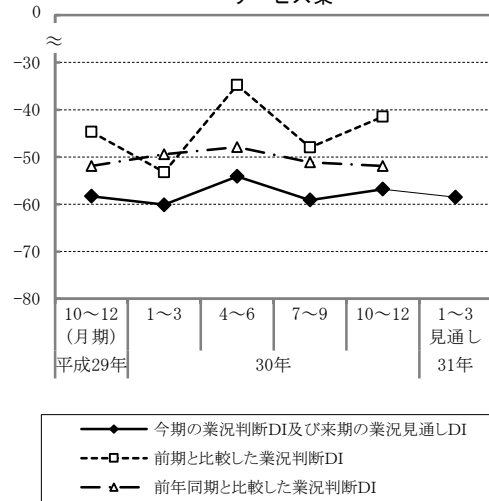
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)41.5で、前期(-48.0)に比べ、6.5ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成29年10～12月期）と比較した業況判断DIは(-)51.9で、前期(-51.1)に比べ、0.8ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成31年1～3月期）の業況見通しDIは(-)58.5で、今期の業況判断DI(-56.8)に比べ、1.7ポイントの悪化の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

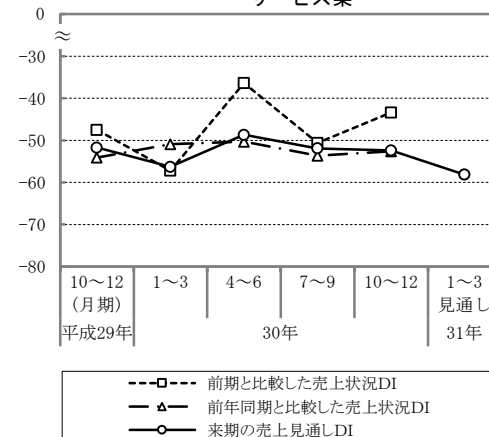
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)43.4で、前期(-50.6)に比べ、7.2ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)52.6で、前期(-53.6)に比べ、1.0ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)58.2で、前期における今期の売上見通し(-52.4)に比べ、5.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

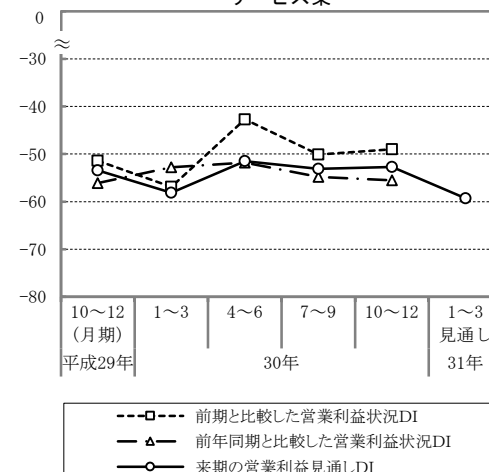
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)49.0で、前期(-50.1)に比べ、1.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)55.5で、前期(-54.8)に比べ、0.7ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)59.3で、前期における今期の営業利益見通し(-52.7)に比べ、6.6ポイントの悪化の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.8 で、前期 (+2.2) に比べ、0.6ポイント「過剰」が拡大した。

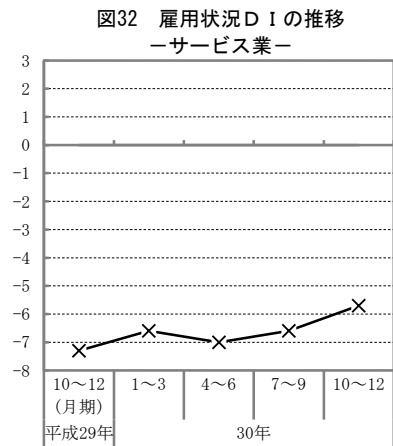
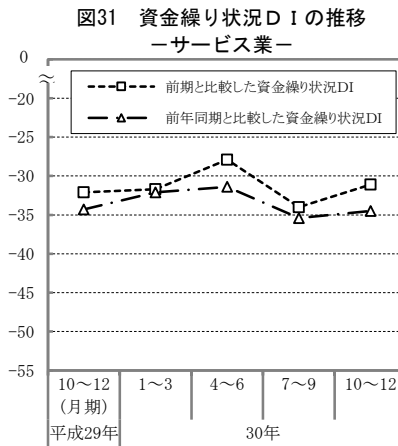
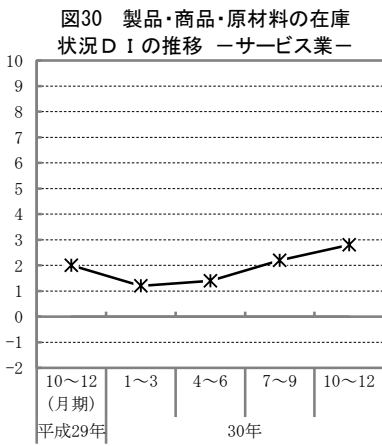
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)31.1 で、前期 (-34.0) に比べ、2.9ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)34.5 で、前期 (-35.4) に比べ、0.9ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)5.7 で、前期 (-6.6) に比べ、0.9ポイント「不足」が縮小した。



Ⅲ 営業収支

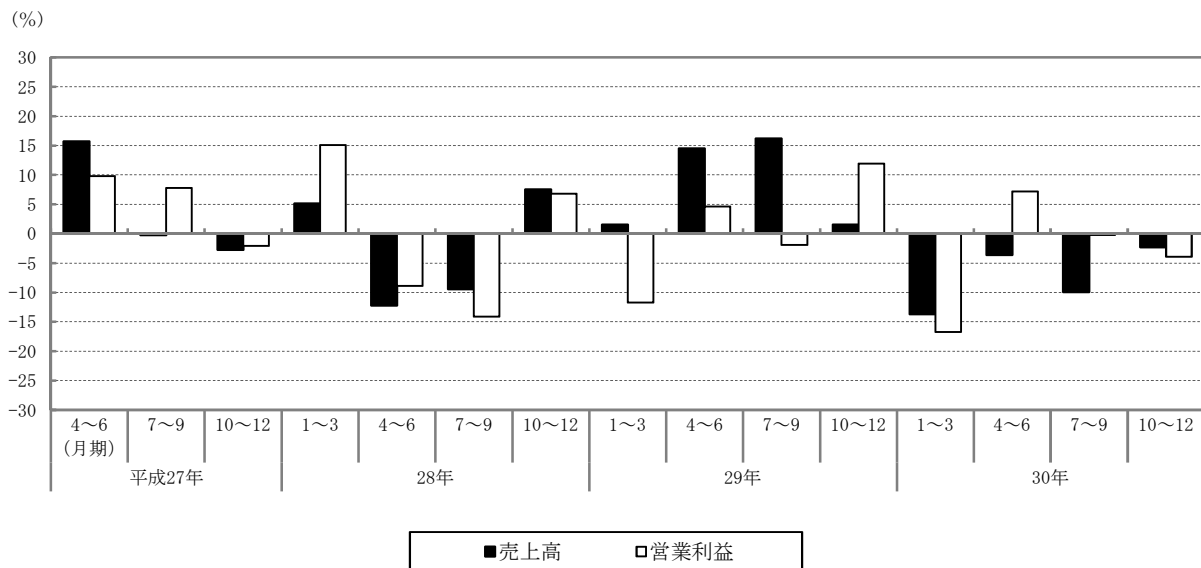
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は253万7000円で、これに対する費用は売上原価が87万4000円、営業費が92万3000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は74万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)2.3%で、4期連続で減少した。また、営業利益は(-)3.9%で、2期連続で減少した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 — 製造業 —

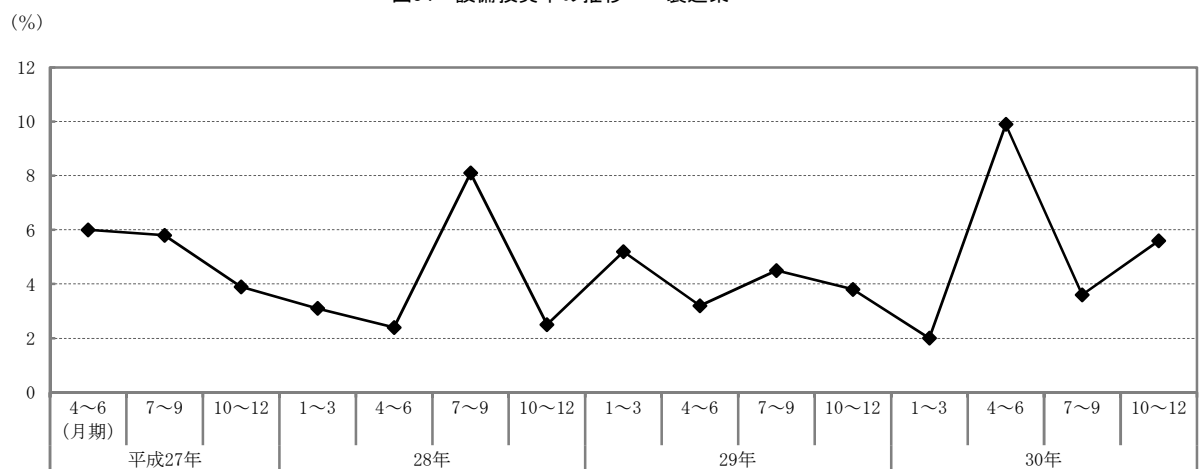


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は14万2000円で、前年同期(9万8000円)を上回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は5.6%で、前年同期(3.8%)を1.8ポイント上回った。

図34 設備投資率の推移 — 製造業 —



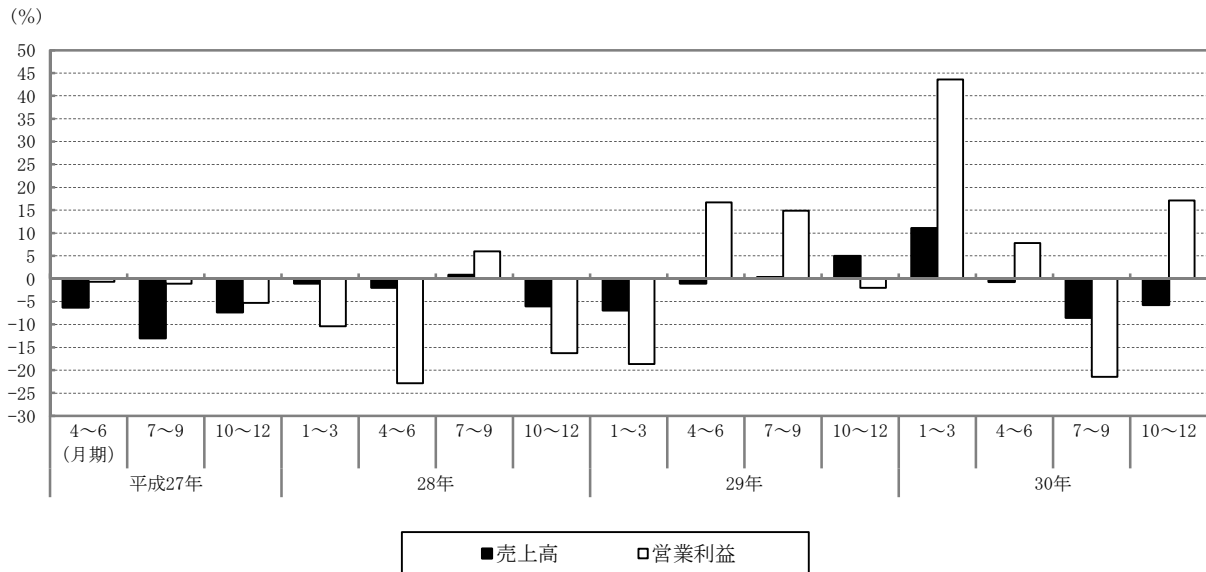
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は377万9000円で、これに対する費用は売上原価が252万1000円、営業費が79万2000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は46万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)5.7%で、3期連続で減少した。また、営業利益は(+)17.1%で、2期ぶりに増加した。

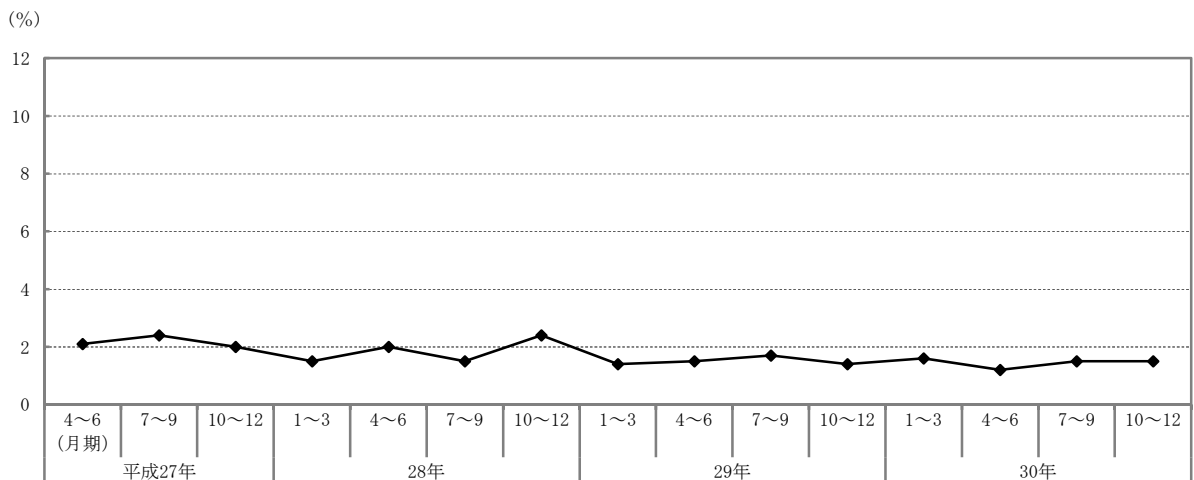
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 —卸売業、小売業—



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万5000円で、前年同期(5万7000円)を下回った。また、設備投資率は1.5%で、前年同期(1.4%)を0.1ポイント上回った。

図36 設備投資率の推移 —卸売業、小売業—

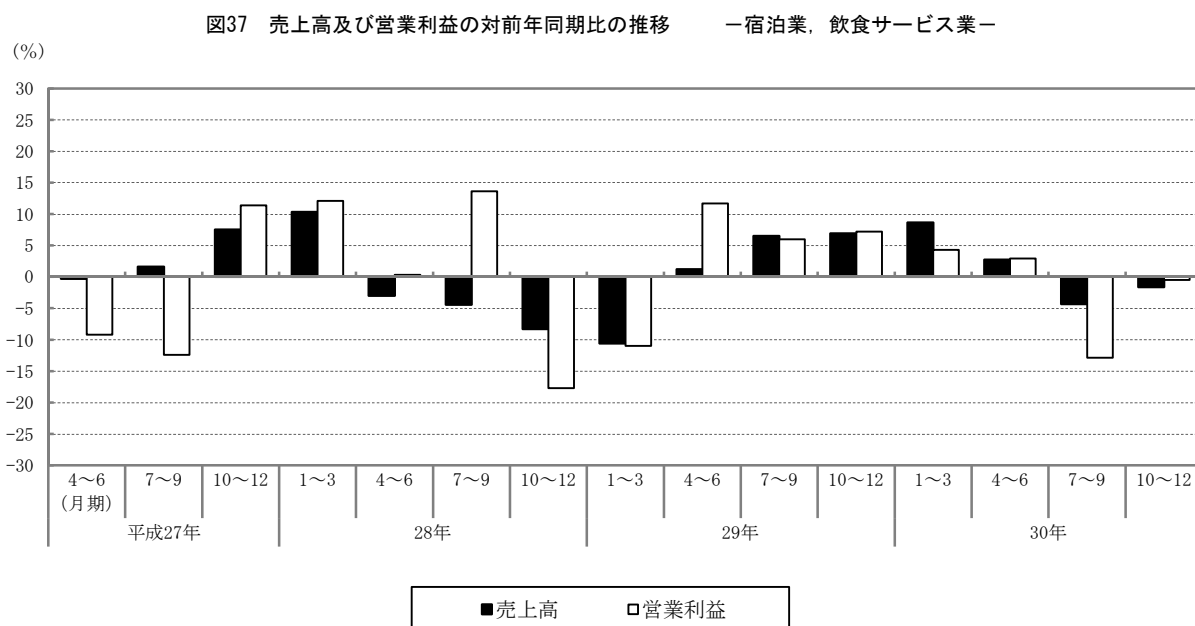


3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

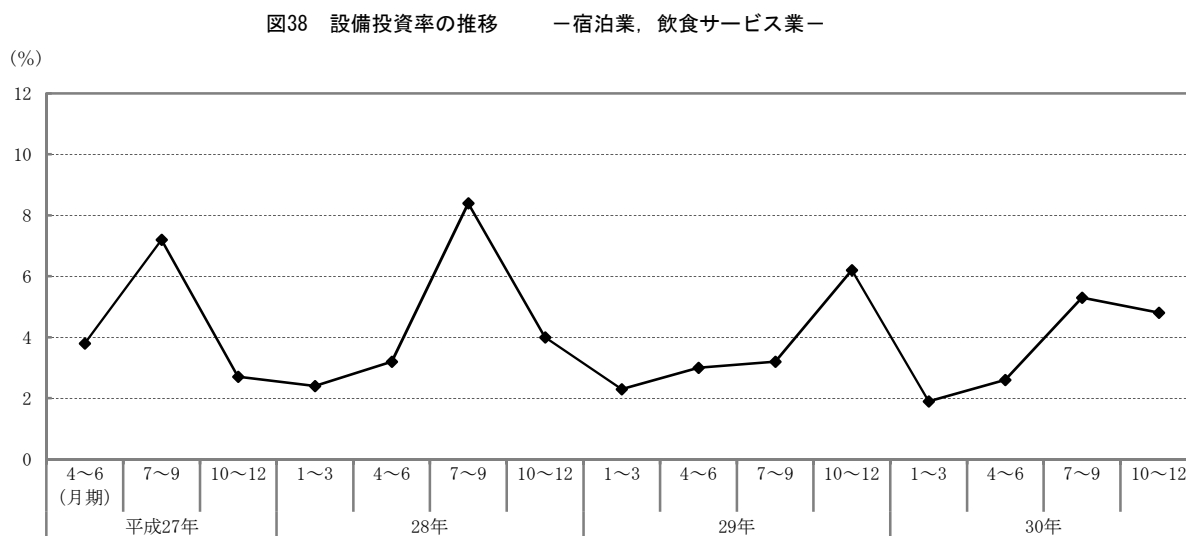
今期の1事業所当たりの売上高は223万1000円で、これに対する費用は売上原価が94万7000円、営業費が87万1000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は41万3000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)1.6%で、2期連続で減少した。また、営業利益は(-)0.5%で、2期連続で減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は10万8000円で、前年同期(14万円)を下回った。また、設備投資率は4.8%で、前年同期(6.2%)を1.4ポイント下回った。



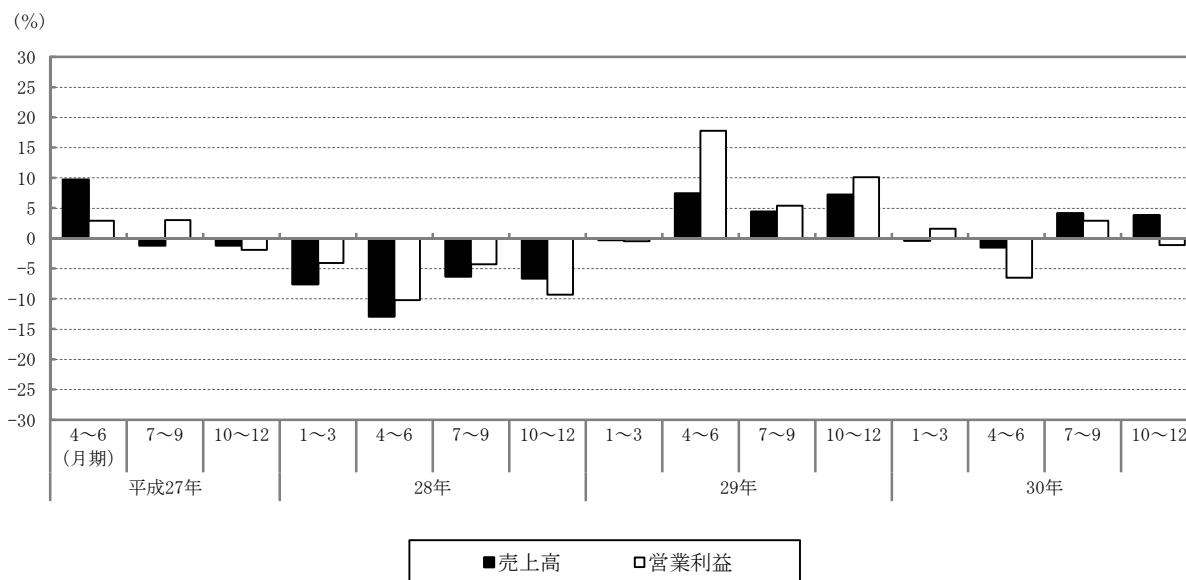
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は133万5000円で、これに対する費用は売上原価が22万5000円、営業費が64万6000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は46万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 3.8% で、2期連続で増加した。また、営業利益は(-) 1.1% で、2期ぶりに減少した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 —サービス業—



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は6万5000円で、前年同期(4万2000円)を上回った。また、設備投資率は 4.9% で、前年同期(3.3%)を1.6ポイント上回った。

図40 設備投資率の推移 —サービス業—

